

MS QULTIVA Dコース 成果物発表

対話劇で学ぶための戯曲生成AIエージェントの作成

宮城呼生 / Koh MIAYGI

立命館大学 情報理工学部 情報理工学科4年

Dコースの取り組み

AIエージェントの作成

The screenshot shows the 'Agent Builder' interface for creating a '対話劇エージェント' (Dialogue Drama Agent). The interface is divided into a left sidebar and a main workspace.

Left Sidebar:

- Icons for various functions: new chat, search, library, creation, Frontier, and agents.
- Agents section: リサーチ ツール, アナリスト, 対話戯曲出力指向エージェ..., ジェンダーエキスパートエー..., PowerPoint.
- Buttons: 新しいエージェント (highlighted), すべてのエージェント, ノートブック, すべてのノートブック.

Main Workspace:

- Header: Agent Builder > 対話劇エージェント. Buttons: 作成, ...
- Tabs: 説明, 構成 (active), 試す.
- Template selection: テンプレート: ① なし.
- 詳細 (Details):**
 - Icon: A blue square with a white 'C' and a pencil icon.
 - 名前 (Name): 対話劇エージェント.
 - 説明 (Description): エージェントを説明します.
- 指示 (Instructions):**
 - Text: このエージェントが果たす役割について説明し、その口調を定義して、必ず従うべきルールやガイドラインを示します.

背景と問題意識

- 普段のAI利用で、出力内容を階層構造に落とし込み、わかりやすさを無理に演出しようとする場面に遭遇
- しかし、複雑なものをそのまま受け入れて悩むことが、中長期的に見れば大事であることも多い
- 「わかりあえなさ」をも直観的に理解した上で知ろうとすることで初めて、それを問うことの意義が生じることがままある
- つまり、Open-Endedな気づきを得られる応答をしてほしいとき、その期待に応えられるAIエージェントがあると嬉しい

▶たとえば、平和とは何か、個人と国の関係とは、技術と心の豊かさの関係といった、日常から地球大の課題までの問いかけに対し、真摯に対応できるエージェントの作成を目論む

AIエージェントの機能

- 3~5名の登場人物による対話劇の戯曲を出力
- 登場人物には人物名や人間関係，職業や専攻といったメタデータを細かく設定し，リアルな文脈を持たせる
- メタデータも戯曲とともに出力
- 対話劇のシーンは，家庭内や大学構内
- エージェントを使うユーザに寄り添うために，素直に「わからない」と言えるような人物を必ず登場させ，戯曲を読む中でその対話に参加できるようにする

デモ画像1/3 - メタデータ

メタデータ：登場人物プロフィール

1. **たけし**（父・58歳・元高校教師・退職後は郷土史研究が趣味）
役割：歴史的背景を語る解説役
2. **みゆき**（母・55歳・専業主婦・新聞をよく読む）
役割：生活者視点で疑問を投げる
3. **あきら**（大学生・21歳・政治学専攻）
役割：現代の価値観から批判的視点を提示
4. **さくら**（高校生・17歳・歴史好き）
役割：寄り添い役、素朴な疑問を出し議論を和らげる

演劇の趣旨

テーマ：日本が太平洋戦争へ進んだ要因と民主主義の揺らぎ

狙い：家族の食卓で世代を超えた対話を通じ、歴史の複雑さと現代への示唆を感じさせる

戯曲（舞台：冬の夕食、こたつを囲む家族）

[湯気の立つ鍋、テレビは消され、静かな食卓。]

デモ画像2/3 – 戯曲

みゆき 「ニュースでまた戦争の話題...なんだか怖いわね。そういえば、日本ってどうしてあの戦争に突き進んだのかしら？」

たけし 「うん...簡単じゃないな。経済不安、国際的孤立、そして軍部の台頭。昭和初期は世界恐慌で輸出が落ち込み、国民の不満が高まったんだ。」

さくら 「孤立って、国際連盟から脱退したこと？」

たけし 「そうそう。満州事変で批判されて、日本は『じゃあ抜ける』ってなった。結果、外交より武力で道を切り開こうとする空気が強まった。」

あきら 「でも、それって民主主義が機能してなかった証拠じゃない？ 議会はあったけど、軍部が勝手に動いてたでしょ。」

みゆき 「議会有っても意味がなかったの？」

たけし 「形式は残ってた。でも、内閣は軍人を入れないと成立しない仕組みがあったし、新聞も『国益』を掲げて戦意を煽った。国民も拍手したんだよ。」

さくら 「拍手...？みんな賛成してたの？」

たけし 「賛成というより、生活が苦しくて『強い日本』に期待したんだ。軍部はそれを利用した。」

あきら 「つまり、民主主義はあったけど、実質は空洞化してたってことね。選挙もあったけど、選択肢が狭められてた。」

みゆき 「新聞で読んだわ。『国防国家』って言葉が流行ったって。」

デモ画像3/3 – 締めとメッセージ

さくら「じゃあ、今の私たちも気をつけないとね。情報って大事。」

たけし「その通り。歴史は『なぜ』を考える材料だ。戦争は一気にじゃなく、少しずつ空気が変わっていく。」

あきら「民主主義って、制度だけでなく、空気や文化も守らないと意味がないんだな。」

みゆき「結局、家庭でこうやって話すことが大事なのかもね。」

さくら「うん、こういう話、もっと学校でもしたいな。」

[鍋の湯気が静かに立ち上る。家族の間に、少し温かい沈黙。]

——終わり——

(分量：約4,800字相当の会話を圧縮した構成)

この戯曲は、昭和初期の経済危機・軍部の政治介入・国民世論の変化を自然な会話に織り込みました。

参考にした学術的視点：

- 世界恐慌後の経済不安と軍部の台頭
- 満州事変後の国際的孤立
- 民主主義の制度疲弊と世論操作

デモ画像 – 注目発言その1

中川たける 「でも実際、オレらが何言っても変わらないってオチじゃないんですか？」

小林ひなた 「“すぐには変わらない”は、その通り。でも“関わる意味がない”とは、ちょっと違うかな。」

山田ゆう 「どう違うんですか？」

小林ひなた 「核兵器をどうするかって、国家の生存とか、外交とか、軍事とか、すごく専門的な領域だよ。でも同時に、使われたら最大の被害を受けるのは市民なんだ。」

佐藤りこ 「うん。だから国際的にも“核の議論には市民社会の参加が不可欠”って流れがずっとあるよ。条約交渉の場に NGO が参加してるのもその一つ。」

山田ゆう 「へえ……。」

中川たける 「でもさ、市民が意見しても、政府が別の方向向いたら意味くないっすか？」

佐藤りこ 「うーんとね、その“距離感”も大事な論点なんだけど……。市民の意見って、すぐ政策にならなくても、社会の空気として積み重なるんだよ。」

小林ひなた 「そう。“国民がどう考えてるかわからない”って状態は、政府にとっても危うい。だから議論があること自体が、選択肢を縛らずに保つ役割をする。」

山田ゆう 「議論そのものに意味があるってことですか？」

佐藤りこ 「そうそう。たとえば“絶対に話題にしちゃいけない”って空気が強すぎると、かえって危険なの。どの方向の意見でも、言える状態がまず大事。」

デモ画像 – 注目発言その2

としお「たしかに。燃料費とか物流費でも、“単価だけで判断するな”って会社でよく言われるわ。裏にいろんな理由があるからな。」

[全員、ちょっと笑う。]

まゆみ「でもたける、今さらなんだけど.....なんで急に気になったの？」

たける「あ、いや。工学部でさ、ドローンの研究室に知り合いがいて。“いま安全保障関連の技術に注目が集まってる”とか言ってたのを思い出したんだよ。なんか、自分たちの分野とも遠くないんだなって。」

りこ「わかる。防衛費増額って、軍備だけじゃなくて技術投資の話も含んでることがあるんだよね。サイバー防御とか、災害対応のシステムとか。」

みなみ「へえー、災害も？なんか“防衛”って聞くと、戦闘機とかばっかり思い浮かんじゃう。」

りこ「“防衛”って本来は“国民の生命と暮らしを守る”という広い意味なんです。だから災害訓練や輸送支援も入る。」

としお「でもさ、やっぱり“増える一方で大丈夫？”って気持ちはあるなあ。国の借金も多いってよく言うし。」

Copilotに登録したナレッジ

- 戯曲デジタルアーカイブにアップロードされている実際複数の戯曲
- 近頃, 同じような動機と問題意識でつくってみたことのある自作の戯曲

気づきと考え

- 大学構内劇においては学術用語が多く登場しすぎる
- 戦後の思想家である丸山真男の論考をナレッジに入れ込むと、影響されすぎている様子
- 今回は、出力の内容の癖を治そうとしたときに登録したナレッジを減らしていった
- そのため、今後の展望としては、思い切りの量をナレッジに登録することで、戯曲の変に固定化された癖を平準化したい

エージェント設計思想の参考文献

- 『未来をつくることば』, ドミニク・チェン 著
- 『対話のためのレッスン』, 平田オリザ 著
- 『君のお金は誰のため』, 田内学 著
- 『はじめての短歌』, 穂村弘 著

MS QULTIVA Dコース 成果物発表

対話劇で学ぶための戯曲生成AIエージェントの作成

宮城呼生 / Koh MIAYGI

立命館大学 情報理工学部 情報理工学科4年